

近畿高等学校体育連盟空手道専門部大会申し合わせ事項（2025年度近畿大会）

近畿高等学校体育連盟空手道専門部

I. 選手の服装と頭髪等

[1]空手道衣

- 1) 空手道衣は高体連ラベル（黒）のついた白無地一色とし、落書きやふちどりのあるものは禁止する。また、帯の色は赤・青のいずれかとし、ゴムやマジックテープなどを付けることは禁止する。
- 2) 空手道衣の左胸に入れる校名は、次の基準による。
 - ①一文字の大きさは5cm～7cm 四方とする。（縦書きで全体の大きさ7cm×15cm程度）
 - ②字体はゴシック・明朝・丸ゴシック・行書・楷書の範囲とする。
 - ③字体の色は黒または紺またはスクールカラーとする。ただし、色を合わせて使うことはできない。
 - ④「～高」は必ずしも入れなくてよい。
 - ⑤個人名の刺繍を入れる場合は黒色とし、姓（名字）又はフルネームであることが望ましい。（個人名はなくてもよい）
 - ⑥指定箇所以外の刺繍は禁止する。
- 3) 空手道衣の左袖上腕部に入れる府県名は、次の基準による。
 - ①一文字の大きさは5cm～7cm 四方とする。
 - ②府・県の文字は入れなくてよい。
 - ③字体・文字の色については、上記2)の②③⑤に準ずる。
- 4) 各競技では、赤青帯を着用する。（帯は個人または学校で用意をすること。）
赤青帯には全空連検定ラベルと高体連指定ラベルの両方を貼っていること。
帯への刺繍は一切しないことが望ましいが、全空連大会で認められていることもあるので、入れる場所は下記の通りとする。
所属名 「〇〇高等学校空手道部」、「〇〇高等学校」、「兵庫県高体連」
「全国高等学校体育連盟」、「全日本空手道連盟」
この類とし、会派流派名道場名は不可とする。
もう片方は、名前
なお、テーピングテープ等を帯に巻き、刺繍を隠す行為は認めない。
刺繍の色は、金色または銀色とする。
- 5) ズボンの空きは、ズボン全長にわたって、ズボンと脚の間（シンガードを付けずに、ズボンを片側に寄せた状態）が8cmから20cmでなければならない。（「気をつけ」の状態を判断する。）
- 6) 業者メーカーの刺繍・ロゴマークについては全空連が認めるようになったので、それに準じる。
- 7) 空手衣の形については従来のベーシックなもの（無駄なカット等がないもの）とする。（ARAWAZA 製メッシュ入り道衣は使用不可）

[2]選手の頭髪等

- 1) 男子はスポーツマンらしい頭髪にし、長くても「まゆげ」にかからず、「耳」が見え、「襟足」が見えるように整髪する。
- 2) パーマ、リーゼント、ソリ、ヒゲ、染色、脱色を禁止する。地毛の色が目立つ場合は、事前に地毛申請を申し出ることが望ましい。
- 3) 女子は金属製のヘアピン等の危険物の使用およびリボン・鉢巻きの使用を禁止する。空手道衣の下は白無地のTシャツとする。（但し、ワンポイント校名もしくはワンポイントのロゴ入りは認める。バックプリントや学校の体操服で襟首に色つきのラインが入ったものは不可。）
- 4) 全体挨拶（「正面に礼」「お互いに礼」）の前に頭髪違反が発覚した場合、3分以内に改善できなければ当該選手は棄権となる。全体挨拶後に発覚した場合は2分間ルールを適用する。団体形競技の場合、メンバーのうち1名でも棄権となった場合、チームとして棄権となる。

[3]ゼッケン

- 1) ゼッケンの着用を義務づける。ゼッケンは四辺をしっかりと外れにくいよう必ず縫い付けなければならない。テープなどでの張り付けや4点だけの縫い付けは認めない。
- 2) 形用と組手用の道衣を使い分ける場合は2枚購入し、それぞれ縫い付けておくこと。

II. 組手競技では男子5点・女子4点の安全具を必ず着用すること。

- 1) ニューメンホーⅥ及びⅦのみ（全空連検定のもの）メンホーシールドの着用は任意とする。
- 2) 拳サポーター赤・青（全空連検定のもの）

- 3) ボディプロテクター（高体連指定またはミズノ製のもの）※男子用、女子用の区別はしない。
- 4) シンガード・インステップガード（高体連指定のもの）（爪先まで覆うタイプの新型インステップ・シンガードはミズノ、東海堂、ヒロタ、ミツボシ(HAYATE)製は使用可）
- 5) セーフティカップ（男子のみ）・・・空手道衣の下に着用すること。

※違反者は反則負けとなる。（2分間ルール適用）

※マウスピースを使用してもよい（任意）。ただし、色は白色か透明なものとする。

※コート整列時に全ての安全具を装着していなければならない。団体組手競技においてチーム内での貸し借りは認めない。ただし、試合中に破損した場合はこの限りではない。

※安全具の改造は失格とする。

Ⅲ. 組手競技・形競技ともにメガネ、コンタクトレンズ（ハード）の使用は禁止とする。ただし、コンタクトレンズ（ソフト）の使用は、個人の責任において認める。

Ⅳ. 負傷及び再発防止のための包帯、サポーター・テーピングの使用を許可する。ただし、次の条件を満たすものであること。

- 1) 攻撃および防御強化のために使用してはならない。
- 2) 相手に危害を及ぼすようなものを中に入れてはならない。
- 3) 装着不備により、競技をしばしば中断させないこと。
- 4) テープの色は、白またはベージュ系の2色のみとする。
- 5) サポーターの色は、白及びベージュ系の2色のみとするが、膝についてはこの限りではない。
- 6) テープとサポーターの同一箇所への兼用は禁止する。
- 7) 清潔な物であること。

[注]あくまでも選手の安全と再発予防のため、軽度の疾病者を対象としたものであり、常識を逸脱するような内容の者および重傷の出場者を許可するものではない。

※初戦から巻いて出場する場合は、審判長立ち会いの下、ドクターの診断を仰いで出場許可を受けなければならない。ただし、親指に巻く程度のテーピングはこの限りではない。

Ⅴ. 組手競技

- 1) 申し合わせ事項Ⅱ. において指定された安全具を必ず使用すること。
- 2) 団体競技(5人制・3人制)において、登録されたメンバーの枠の中で、回戦毎のオーダーの変更はできる。ただし、試合毎にオーダー票を提出すること。提出後の変更は認めない。提出後、やむを得ない理由で出場できなくなった場合、当該選手は棄権とし、オーダーは詰めない。また、当該選手はコートに整列しない。オーダー票のミスは反則負け、または失格となる。
- 3) 団体競技は、1・2回戦は全員試合を行うが、3回戦以降は勝敗が決まった段階で試合を終了する。
- 4) 団体競技は、規定の過半数の選手（5人制は3人、3人制は2人）で成立する。エントリーは自由に配置できる。ただし、3人制で2人対2人の場合のみ、前詰め of オーダーとする(オーダー票提出後、自動的に前詰め)。
- 5) 5人制(3人制)団体組手において登録人数が5名(3名)以上あり、出場人数が5名(3名)未満の場合、出場しなかった選手は棄権扱いとなり、以後の試合に出られない。
- 6) 組手競技における危険回避（事故防止）のための遵守事項。
 - ①メンホーは皮膚の一部であり、メンホーの開口部に手を入れたり、掴んだり、押したり、それに関連する動作は全て禁止でペナルティが課せられる。
 - ②メンホーの装着は仕様に従い、しっかり装着すること。
- 7) 倒した、あるいは倒れた相手に対する蹴りは認められるが、必要以上の加撃がないように十分注意すること。
- 8) ジュニアカデットルールで実施する。上段への技は従来通りとする。接触技は禁止（蹴り技のスキンタッチは許される）、蹴り技は10 cm以内、突き技は5 cm以内とする。
- 9) 試合が連続する場合のインターバルの時間は1試合時間(2分間)とする。赤青のコーナーが変わる場合は3分間とする。
- 10) 10カウントルールを採用する。
- 11) 大会ドクターが脳震盪の疑いがあると判断した場合、当該選手は残りの大会期間中、全ての競技に出場できない。
- 12) 大会ドクターが続行不可能と判断した場合、ドクターストップとなり、以後少なくとも組手競技に出場できない。ただし、大会期間中に状態が回復し、日にちが異なる競技の出場を希望する場合は、必ずメディカルチェックを受け、ドクターストップを解除されない限り、出場は認められない。尚、10カウントルール成立によって組手競技に出場できなくなった場合は、大会期間中組手競技に再び出場することはできない。

- 13) 試合中に懐から不要な物が落ちた場合について。負傷など危険性があると判断された場合、反則負けとする。
- 14) 3人制団体組手の順位決定は、トーナメント1位チームに準決勝で敗れたチームと決勝で敗れたチームで全国選抜大会出場校決定戦(2位,3位決定戦)を行い、順位を決定する。
- 15) 双方無得点または同点で双方に「先取」がない場合については以下の基準で勝敗が決定する。以下の基準においても勝敗が決定しない場合は、個人戦では判定となり、団体戦では引き分けとなる。ただし団体戦の代表戦では判定となる。

基準①: 一本技が多い方 基準②: 技ありが多い方

VI. 形競技

- 1) 個人形・団体形ともに得点制(トーナメント方式)で実施する。
- 2) 個人形・団体形競技の1,2回戦は(公財)全日本空手道連盟第一指定形または第二指定形とし、同一形でも異なる形でもよい。3,4,5回戦は2回戦までに演武した形以外の競技形とする。準決勝、決勝戦は4回戦までに演武した形以外の競技形とし、個人形競技は同一形連続不可(最低4つの形が必要)。団体形競技は同一形連続使用可(最低3つの形が必要)。
全国選抜大会代表決定戦の形はそれまでに使用した形を含めて、指定形、競技形いずれも可とする。
敗者復活戦は行わない。
※第一指定形・第二指定形及び競技形は空手道競技規定(JKF令和5年度初版)の「付録4:指定形リスト」並びに「付録5:得意形リスト」に代わる「競技形リスト」(2025年4月1日運用開始)から選択しなければならない。
- 3) 団体形競技は規定の選手数(3人)を満たさないと成立しない。
- 4) 団体競技において登録されたメンバーの枠の中でラウンド毎の選手交替はできる。
- 5) 同点の場合は以下の手順で上位者を決定する。
 - ①有効得点の最低点 ②有効得点の最高点 ③再試合
- 6) 再試合の形はその回戦で使用していない形とし、それまでに使用した形も認める。また、それまでに使用していない形を選び勝ち上がった場合でも、その形を本戦で使用することを認める。ただし、団体形競技において再試合の場合は、同じ形でも良い(分解を含む)。再試合は1回まで実施する。
- 7) 再試合でさらに同点だった場合の勝敗の決定方法は
2名(チーム)から1名(チーム)決定の場合、高い点数を出した審判員の多い選手が勝ち。
3名(チーム)以上から決定の場合、審判員が選出する人数分(チーム数分)の投票をし、多数票選手の勝ち。
- 8) 団体形競技で再試合のメンバーを変更する場合、控え選手をあらかじめコートに整列させてよい。
- 9) 団体競技において、「よ〜い、はじめ」「なあって」などの発声(合図)は減点対象となる。
- 10) 個人形競技、団体形競技ともに登録用紙は1回戦から提出する。
- 11) 団体形競技の準決勝戦と決勝戦では、形演武の後にその形の分解を行う。相手チームが棄権の場合でも、勝敗に関係なく分解演武を行うことができる。
- 12) 団体形分解の禁止事項
 - ① 首へのカニばさみ
 - ② 肩より上に持ち上げる行為
 - ③ 相手を投げ捨てる行為注) 2秒を超えて意識のない状態を継続した場合は減点対象となる。
- 13) 形演武中に懐から不必要な物が落ちた場合、反則負けとする。(マスクやタオルを懐に入れないように注意する)
- 14) 競技中、アップできるのは次の選手(チーム)のみとする。

VII. 引率

- 1) 引率責任者は校長の認める当該校の職員または外部指導員とする。
- 2) 引率責任者は選手のすべての行動に対して責任を持つこと。

VIII. 監督

- 1) 原則として監督は顧問であるが、学校長の認める者(当該校職員、外部指導者、卒業生等)を監督として申請することができる。原則1名とするが、競技日程の関係で男女あるいは選手が重複して出場し、同時進行になった場合に限り、運用として当該校の校長が認めた顧問・コーチがその競技のみ臨時監督を務めることができる。ただし、事前に競技委員長に申し出る義務を有する。
- 2) 監督は審判員を兼ねることはできない。
- 3) 監督の服装はトラックスーツ(上下長袖のジャージ)またはウィンドブレーカーとし、シューズを履く。
監督腕章は付けない。
 - ・トラックスーツには学校名を入れること。入れる場所や大きさ、字体は問わない。また、華美なトラック

スーツは避ける。(スクールカラーは可。ハーフパンツのトラックスーツは禁止)

- ・シューズの底については体育館フロアを傷つけないゴム製や布製のものとする。
- ・上記以外の服装の場合、監督に付けない。

- 4) 監督は、大会期間中に開かれる監督会議に必ず参加し、IDカードを受け取ること。試合中は常時IDカードを首からかけ、見えるようにしておかなければならない。
- 5) 監督は指定された監督席に着席する。

IX. 健康管理

- 1) 競技中の疾病・障害等の応急処置は主催者側で行うが、その後の責任は負わない。
(大会保険の加入・大会医師の常駐)
- 2) 故障者については、顧問の責任で出場を取り止めること。
- 3) 参加選手・役員は、健康保険証を持参すること。

X 計量

- 1) 大会初日に指定した会場で指定した時刻に行う。指定時間内であれば何度でも計量にトライできる。1度でもパスすれば、エントリーした階級に出場可能となる。
- 2) 服装は半袖Tシャツとハーフスパッツとする。
- 3) 計量体重から±1.0k g調整した値を測定値とする。

XI. その他の注意事項

- 1) 一度棄権した選手は、以降の当該種目のみ出場できない。
- 2) 競技中に競技者からのタイムの要求はできない。全て主審または副審のアピールによる。
- 3) 競技者が定位置に戻る時は速やかに戻る。だらしない態度や行動はしないこと。
- 4) 競技者が定位置に立ったときは、完全に静止し主審の合図を待つこと。
- 5) 競技者がポイントを取ったとき、または勝ったときのオーバーアクションやガッツポーズを禁止する(監督や待機選手も同様とする)
- 6) メンホーやその他安全具を自ら外し、時間を稼ぐ行為は禁止する。
- 7) 競技者が道衣の上に衣類を着用する場合はだらしない着方をせず、競技開始時や終了時には脱ぐこと。
- 8) 競技者が試合コート内で円陣を作り、氣勢を上げる等の示威行為を禁止する。
- 9) 競技者は、定位置のみならず試合コートへの出入り時にも「礼」をすること。団体組手競技において、選手が試合を終えてコート外に出る際、一礼をするまでは次の選手はマットに上がらないこと。
- 10) 抗議はルール違反、運営上のミスに対してのみとし、速やかに行うこと。次の試合が始まってしまった場合は、原則として受け付けない。また、ビデオ映像を用いた抗議は認めない。
最終処置(判断)は大会会長(部長)、審判長が行う。その判断には従わなければならない。
- 11) 空手道衣や安全具を観客席から投げ入れないこと。
- 12) コートに不要なものは持ち込まないこと。
- 13) 応援は拍手のみで行う。

附則 令和4年11月23日より適用する。

令和5年11月25日より一部変更あり。

令和6年11月23日より一部変更あり。

令和7年11月22日より一部変更あり。